GII 2026から読み解く：日本企業の知財戦略「量から価値共創へ」の転換



高いインプット（11位）に対して
アウトプット効率に乖離。
研究開発投資や市場の洗練度は世界
トップ級だが成果の波及効果が不足



PCT出願密度・知財受取額1位も、
労働生産性成長率は86位



特許出願数世界1位（10.1%）

既存大企業による特許蓄積に対し、
新興企業へのリスクマネー循環が
極めて細い

次世代型知財戦略：量的大量出願から価値共創への構造転換



件数維持から「事業貢献・標準化」重視の厳選ポートフォリオへ

休眠特許の棚卸しでコスト則減し、
グローバル標準化特許（SEP）獲得へ再配分

ディープサイエンスの「アンカー顧客」兼「量産適応パートナー」化

大企業の製造ノウハウと需要を提供し、
スタートアップの事業化を協創・牽引





AIモデル・データ・営業秘密を包括する「無形資産戦略」へ拡張

ハードウェア特許偏重を脱し、ソフトウェアやAI・データ資産を多層的に保護

Gemini Notebook